

防災・減災

中部の安心・安全を確保するため、各種防災情報をはじめ多種多様な情報を一元的に管理し、必要な情報をより迅速かつ的確に収集し、利用者へ配信します。

情報収集

河川、道路、ダム等を適切に管理するために、様々な機器を用いて情報収集を行っています。

情報処理システム



収集した情報は、サーバで一元管理しています。膨大なデータを解析して、予兆検知等も実施しています。



平成30年度入省
前田 光亮

スタートは情報収集

災害を未然に防ぐ、被害を減らすために、雨量や河川状況等の情報をより正確で迅速に収集することが重要です。その情報を収集する雨量レーダー等の観測設備やカメラ設備を整備・維持し、常時観測できるように心がけて業務に取り組んでいます。

情報配信

各種機器を通じて集められた情報は、中部地方整備局及び各事務所等に集約され、利用者へ配信されます。

収集された情報の一部はインターネット、地上デジタル放送を通じて地域住民の皆様に配信されています。



平成27年度入省
尾崎 宙

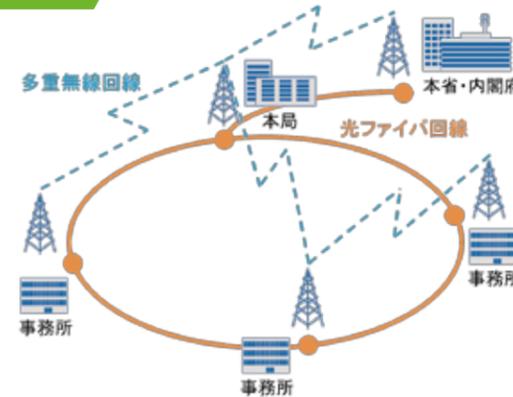
「正しい情報の配信」を心がけて日々の業務を

観測情報は様々な手段で、一般の方へ広く配信されています。例えばカメラ映像はCATVやインターネットを通して、路面状況や通行止め情報は道路情報板で提供しています。正しい情報が皆様に配信されるように、注意を払いながら業務を行っています。

災害に強い通信 ネットワーク

光ファイバ回線や多重無線回線を整備して、情報の伝達を途絶させない通信ネットワークを構築しています。

通常は、高速大容量伝送が可能な光ファイバ回線を利用して通信を行っています。また、災害等により光ファイバ回線が途絶した場合は、被災リスクの小さい多重無線回線に瞬時に切り替わります。



平成30年度入省
穴井 文彬

強靱な高速通信ネットワークを目指して

国土交通省では、大容量高速通信が可能な光ファイバ回線と、確実な運用通信が可能な多重無線回線を独自に整備し、通信ネットワークの冗長化を行っています。災害時も通信ネットワークを維持し続ける事、通信障害が発生した時に迅速に対応する事は、私たちの重要な使命です。



多重無線設備
国土交通省で独自に整備している多重無線通信網にて、電話、映像、各種データの伝送を行います。

ダムコン
ダム管理において必要な情報を収集し、放流設備の操作、利水者等との情報送受信を行う事により、ダムを適切に管理・運用しています。

レーダー雨量計
レーダー雨量計では半径60kmの範囲で雨の降っている場所を高精度で観測することができます。

トンネル照明
トンネル内部の他、入口・出口部も明るくし、屋外との明暗差を解消しています。

光ファイバ
平常時には、高速大容量伝送が可能な光ファイバ回線を使用しています。

放流警報装置
ダム下流域にいる河川利用者にサイレンで水位の上昇をお知らせします。

テレメータ
水位計や雨量計データなどを自動収集し、省力化・効率化を実現しています。また、観測・収集されたデータはインターネットなどで提供されています。

道路情報表示装置
交通事故等を未然に防ぐために、道路情報表示装置を通して規制情報や路面状況等の提供をしています。

トンネル防災設備
トンネル内で事故、火災等が発生した場合、道路管理者、警察、消防に通報するとともに、トンネル内に取り残された人の安全を確保し、後続車両の二次災害を防止します。

水位計
水位計や雨量計データなどを自動収集し、省力化・効率化を実現しています。また、観測・収集されたデータはインターネットなどで提供されています。

ダム情報板
ダム放流前に注意・危険情報を表示し、河川利用者に避難を促します。

受変電設備
大電力を必要とする事務所、ダム、トンネル等で、電気事業者から受電した高圧電力を必要な電圧に変換しています。

ETC 2.0
通行車両から走行データを集約し、道路管理の高度化に寄与しています。

CCTVカメラ
中部地方整備局が保有する約3000台のCCTVカメラを活用し、管理区域に異常がないか常に情報収集しています。

道路照明
使用灯具や形状に配慮した効率のよい照明を整備しています。